

鹿児島城のお濠の蓮について（Q&A）

	項目	説明
1	濠の広さは	濠を含む県史跡面積（鶴丸城跡部分）：面積 5,100 m ² 国道 10 号側の長さ：約 180m 医療センター側の長さ：約 140m 濠の幅：約 5m
2	濠と蓮の管理はどのように行われているのですか	濠は県有地で、黎明館の敷地です。 濠は文化財保護の対象となっており、現状の変更または影響を及ぼす行為を行う場合は手続きが必要です。蓮の生育に人の手は入っておらず、自然な生息環境が保持されています。
3	濠の水はどこからきているのですか	鹿児島城周辺は吉野台地からの地下水脈が流れており、濠の底に滲んでいます。加えて、城山からの降雨水が流入するとともに、黎明館裏庭の御池の水も、オーバーフローした分は側溝から濠に入っています。
4	蓮の本数は	把握していません。
5	蓮の花の見頃は	例年6月中旬～7月にかけてですが、年によって異なります。 令和元年は、10月まで花を見ることができました。
6	蓮の品種は	把握していません。
7	蓮は、島津義弘が朝鮮半島から持ち帰ったとされる「千葉蓮」ですか	千葉蓮が鹿児島城の濠にきたという説があるようですが、濠の蓮は千葉蓮ではありません。 千葉蓮は、『三国名勝図会』によれば、島津義弘が文禄・慶長の役（1592～1598）の際に朝鮮半島から持ち帰ったもので、栗野（現湧水町）の徳元寺に植えられ、本府（鹿児島）にも移植されたとありますが、現在はどちらの場所にも蓮は残っていません。 仙巖園には、現在「千葉蓮碑」が残っており、十代藩主島津斉興が仙巖園に移植したとされています。 徳元寺では平成 29 年に池の遺構調査が行われ、池を囲んでいたとみられる石垣跡などが見つかりました。
8	蓮はいつからあるのですか	明確には分かっていません。 明治 5（1872）年に明治天皇が鹿児島を行幸した折の図『中国西国巡幸鹿児島着御』（昭和 5（1930）年、原本：聖徳記念絵画館所蔵）には、一行が濠の石橋を渡って御楼門に向かう様子が描かれていますが、そこに蓮は描かれていません。この絵は慎重な調査を行い、史実に忠実に描かれていることから、明治 5 年には濠に蓮はなかったと考えられます。 一方、『七高造士館で学んだ人々（名簿編）』によれば、明治 34（1901）年から 2 年間、本丸跡に建っていた第七高等学校造士館の数学教師及び教頭を務めた丹下丑之助（丹下梅子博士の兄）が「鶴丸城の堀に蓮を植えた」とあります。 上記の情報から、明治 5 年から明治 36 年頃までの間に蓮が植えられた可能性が考えられます。